

【所属名：環境生活課】

【会議名：第1回糸魚川市環境審議会】

会 議 録

作成日 平成24年7月12日

日	平成24年7月12日	時間	9:30 ~ 12:00	場所	本庁 201・202 会議室
件名	議題 環境基本計画 PDCA 進行管理について (公開)				
出席者	【出席者】 14人 佐藤(芳)委員 鷺澤委員 田村委員 恩田委員 小林委員 佐藤(晋)委員 吉田委員 山岸委員 小笠原委員 清水委員 杉野委員 小野委員 山本委員 磯貝委員				
	【欠席者】 0人				
傍聴者	【事務局】 吉岡部長、渡辺課長、中村課長補佐、高野係長、福光主査、小熊主査				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	0人

会議要旨

- 1 開会 進行 渡辺課長
 - 2 副市長あいさつ 本間副市長
 - 3 会長、副会長の選出 会長に佐藤芳徳委員、副会長に鷺澤澄雄委員を選出
 - 4 議事
- 《主な質疑・意見》
- ・環境基本計画 PDCA 進行管理表について
《基本目標1 自然環境》
 - 【委員】 テレメトリー調査は発信器をつけるなど大変な調査だが、具体的にはどんな生物に対して行われているか。
 - 【事務局】 テレメトリー調査は猿に絞ってやっている。猿の捕獲が難しい。
 - 【委員】 動植物生息状況等調査に、魚類と書いてあるが池などの淡水系と考えればいいのか。
 - 【事務局】 淡水系を中心に予定している。余力あれば海も可能かと思うので、可能な限り取り組む。
 - 【委員】 地形・地質の項目で、タイアップしたイベントの詳細は。
 - 【事務局】 地震火山子供サマースクールというイベント。小学生を対象。ジオパークの地形や大地の仕組み等を実感することで、野外観察や身近な材料をつかった実験を行いながら、防災の観点からの理解も含めた目的としている。
日程は8月18日・19日の2日間になり、2日目はジオパークフォーラムを予定しており、子供からの発表も予定している。

- 【委員】 23年度実績に国立青少年教育施設との連携イベントとあるが、具体的な内容は。また、今年度も継続し毎年続くのか。
- 【事務局】 妙高自然の家とのタイアップ事業。9月に大地の秘密探検隊ということで予定している。妙高に都会から多くの子供たちが夏にやってくる。向こうの提案もあったが、地質の学習という面もあるが、海を中心にした体験活動。
磯辺の生物観察や地引網体験など、海と山での体験を青少年の家に泊まった方々に体験していただく。今後続くかどうかは決まっていないが、続けていければと希望は持っている。
- 【委員】 青少年の家を利用した子供の体験だが、市内の小中学生が関わることではないのか。
- 【事務局】 できれば地元の小学生も参加した交流に結び付けなければと思っている。ジオパークの自然をあわせて見てほしいと考えているが、相手の狙いは海が大きい。
- 【委員】 ウルフピーの貸与は新しい言葉で、具体的に教えてほしい。
- 【事務局】 ウルフピーは狼の尿、日本狼は絶滅したが、基本的に動物が外敵の匂いに近づかない習性を利用したもの。
- 【委員】 どこかの自治体を参考にしてこの制度を取り入れたのか。
- 【事務局】 全国的にも実績があるという報告もあることから、市も取り組んで行きたいということ。
- 【委員】 木質ペレット製造施設への支援は、今年から木島組が取り組むと聞いている。化石燃料から木質燃料に切り替わる時期にも来ているので、的を射た取り組み。実際にペレット製造の段階になれば、ボイラーやストーブの普及・啓発が重要になる。今年予算の2,420万円というのは設置費での補助になっている。実際にペレットが回るようになれば、家庭や公共施設に配備するには支援策が必要と考えるが、そういった取り組みはどうか。
- 【事務局】 来年度以降、個人の方の木質ペレット購入についても、補助したいと考えている。
- 【委員】 エコファーマーの認定、参加者が増えなかったというが、増やすための方策は。
- 【事務局】 知っていただくことが重要で、農家組合を中心にチラシを配布している。10名程度新規で参加していただくことになったので、一定の結果は出たと考える。
- 【委員】 ジオの森整備事業と木島組のペレットとのリンクは。
- 【事務局】 製造するに当たっての、材料の供給ということもあり、市内の供給はタイアップすると考えている。
- 【委員】 海や海岸の綺麗さに関する満足度とあるが、21年～23年までやっていないが、最終26年までやらないのか。目標に達しておらず中だるみになっている。ここらで締めなおさないといけない。
- 【事務局】 環境基本計画策定時のアンケートで満足度について調査している。26年度は中間年として、その時点でアンケートを取る予定。
- 【委員】 アンケートは大変だが、26年度に行って非常に低い値ならどうしようもない。
- 【委員】 姫川クリーン作戦、目標を200人にしているのに、年々と参加人数が下がっている。中だるみの最たるもの。それでよしとするのか。
- 【事務局】 昨年度は参加者を増やすことで、国土交通省とも連携し取り組んでいたが、前日の

大雨で中止となった。今年は 27 日に予定しているので、中だるみしないように取り組んで行きたい。事業主体は国土交通省であり、市としては協働という表現をとらせていただいているので、意見を国土交通省に反映したい。

【委員】 ジオサイトに生息する植物を紹介する図鑑を今年度の制作となっている。パンフレットなのか、冊子のような物で販売するのか。

【事務局】 冊子的なもので色ごとにまとめる予定をしている。販売を予定しているか確認できていない。(確認後:一般に販売をする。)

【委員】 ジオサイトは地質が多く硬いイメージがあるので、こういう植物とかをあわせてPRできればと思う。いい物を作ってほしい。

【委員】 昨年、猪などの被害が大変だったと思うが、小滝の知り合いは春に猿の被害があり、畑を作っても被害が出るといっている。貸与などの政策だけでは、「やりたければどうぞ」というふうに見えてしまう。本気になって取り掛からなくてはいけない。鳥獣免許取得の補助だけでいいのか。本格的にやらなければいけないと感じる。みていて甘い。被害が出ている農家もいる。電気柵も設置した場所はいいが他に出てしまうという話もあった。捕獲に努めるのではなく、猪を 50 匹捕獲するとか、そういう形にしないと進まない。

【事務局】 動物の畑侵入には試験的に導入した電気柵が有効。正式な設置は、市も一部助成するが、原則的に受益者から取り組んでいただく。効果を確かめるまでは行政主体だが、実施は受益者負担が原則。捕獲頭数の目標としては、被害が多ければ、目標をきちんと管理することが、必要と考えている。

【委員】 狩猟免許への補助も行っているが、有害鳥獣の捕獲个体数を把握しているのなら、その報告もあれば実績もわかる。ひとつの畑にからすが何十把もいるようでは、畑は物にならないと感じている。狩猟免許持っていないでも嫌がって撃たないという話も聞く。

【事務局】 捕獲頭数は把握している。捕獲頭数は増加傾向にある。次回までに数値を提出する。

【委員】 電気柵の貸与で効果がわかったので、実際の設置は受益者がやるべきということだが、猪が出る地域が、過疎化している山間地で経済力もない。平等性もあるが、そういうことも考えていかないとますます過疎化していく。

【委員】 家庭菜園でも被害がある。家庭菜園の人の声が大きくなるが、専門にやっている人たちは自分で努力し対策を考えている。電気柵の有効性はわかっている。農家に対し、どの程度補助していくのか。

【事務局】 担当課が要項を定めている。例えば、対象がふたり以上であるとか、一定の面積以上であれば市が支援することになっている。そういうものを活用し、自己負担がある中で運用してほしい。すべてが市でやれるわけではない。

【委員長】 周知をしっかりとやり、どういう施策があるかわかってもらうことが重要。

【委員】 市役所内の業務に携わる人が代わる。継続性が伝達されているのか。それがしっかりできていないと、審議をしてもうまくまとまらない。ジオパークという言葉に糸魚川市全体が踊らされている。果たして、ジオパークの言葉の元に環境問題が理解されているのか、環境を守っていくことがこの審議会の任務。そういうことを考え

ずにいろいろな委員会を作っていたのでは、何の方向性も見出せない。

【事務局】 担当者が一定の年数で変わるが、職員はいろいろな分野で総合的に物を考えるといういい面もある。専門的分野には一定年数従事することも必要であることから、人事異動については、それらを踏まえていく。事務の引継ぎはきちんとやっているが、レベル差は出る。研修等で補っていく。審議会が時間不足という話もあるかと思うが、時間数や回数を確保するのでご意見をいただきたい。

【委員】 目標の平成 26 年までは同じ委員、同じ職員がやるべきと感じていた。職員は変わっている。人事担当に意見が伝わっていない。人が変わると前例をうまくやるだけで、新しいものは出ない。去年と同じ内容で若干変わっただけ。

【委員】 市役所として総合的にということもわかるが、専門じゃないのでわからないと言われると話が進まない。せめて、この委員会の目標年まで同じ職員でやるべきと思う。

【委員長】 話が違う方向に進んでいるので、最後にこの話を持って行きたい。

【委員】 生物分布のまとめ方として、ジオサイトだけでまとめていくのか。ジオサイトでないところに生物がいればおかしくなる。生物分布が網羅されないのではないか。

【事務局】 ジオパークは市内全域と考えてほしい。

【委員】 狩猟免許取得の補助があるが、猟友会も高齢化している。猟友会員は増えているか。

【事務局】 実際に銃の免許を持っている人は高齢化している。罾の取得者は増えている。

【委員】 罾をかけても、実際に取れないという話もある。免許を更新しようとしたら、かなりの維持費がかかると聞いた。免許取得だけでなく、維持するための経費援助もあれば維持しやすい。

【事務局】 あらゆる分野から色々な要望が出ており、すべての要望にこたえられない。市としての優先度を考えている。

【委員】 従事者登録などに免除制度がある。県としても、免許取得を勧め、講習会の開催をしている。猪は獲るのに慣れていない人が多い。和歌山県等のスペシャリストを招いてシンポジウムなどを行っている。県も大きな課題として動き始めている。

【委員】 猪、熊を撃った場合、その後はどうなるのか。

【委員】 免許を持った人が撃つことになるが、予察ということで春先に撃つことと、緊急的に街中に出たときに警察等の判断で射殺することのふたつ。免許を持っていても、慣れた人が撃つことになる。

【委員】 熊の胆とかはどうなるのか。

【事務局】 狩猟した動物の処理については狩猟者に処理をお願いしている。もしも残渣などで処理できないものがあれば市としても協力している。

【委員】 パンフレット作成などを削っても、この猟友会への事業にかければどうか。田んぼに猪被害あれば、荒らしていかななくてはならないのが現状。

【事務局】 優先順位の参考としたい。

【委員長】 ここの場などで優先順位を決めていく方法もあるので、意見を出してほしい。

【委員】 個人的には必要な物に 10 倍かけてもいい。重点的にお金を入れてほしい。

《基本目標 2 生活環境》

【委員】 浄水汚泥の話は、今発生したことでないが、これらの背景は。

【事務局】 上下水道汚泥は、一部はセメント原材料として処理してきた。そのほか、園芸用・埋め立て用に販売できた。8月30日に法律ができ、この上水道・工業用水道汚泥は特定廃棄物となった。販売できない状況になり浄水場内などに保管している状況。発生元でも危機感を持っている。場所が狭いところは県外処理もある。セメント処理は原材料の一部となり、製品中の割合が低く非常に低い濃度になる。他市のように焼却すると灰が残り埋め立てが必要となり、その場所は管理していかなくてはならないが、セメントは濃縮でなく濃度が低くなる処理方法。安全性としてはいい処理方法のひとつ。他方面では電力等の受益を受けていることから、セメント工場がある市として受けて行きたい。権限は産業廃棄物なので県にあるが、地震前から許可しているものなので規制するものではない。国では8000ベクレル以下の処理は可能としているが、企業も慎重になっているので、放射性廃棄物とならない100ベクレル以下の汚泥だけを受け入れることとしている。

【委員】 発生元からデータが送られてきて処理となると思うが、糸魚川市でも受入れ体制ができていいのか。焼却した場合、排ガスに放射能が含まれるのでないかという心配があるが、そういうことはないのか。

【事務局】 実際に汚泥を測定する能力はないが、空間線量測定は市でも機器を持ち測定している。下水道汚泥は特定廃棄物でないので企業は受け入れているが、敷地境界で測定したものと、遠く離れた場所で測定したものと数値は変わらない。放射線量が増えていることはない。

【委員】 セメント工程は密閉系で、原料からダストまでキルンに戻る構造、電気集塵機のダストも同様。現状で測っても、排気に放射性物質は含まれていない。セメントに含まれるレベルは、試算では1日63,200ベクレルぐらい入ってくる。これを1日焼成するものは4,000t程度となり、全体では1.6ベクレル/kg程度になり、通常の測定では検出できないレベル。100ベクレルという話は、一般食品と同じかなり低いレベル。

【委員】 今まで発生していたのにここで受け入れて、なし崩し的に東北の物が入る心配はないか。

【事務局】 県内の汚泥という話をしている。心配しているのは瓦礫の話しと思うが、瓦礫は東北地方自身で焼却炉を作ってやっているが、処理に時間がかかることから、国でも広域処理を依頼している。受入れは、国・県・市の流れになっており、新潟県知事が焼却・埋め立て方法に疑問を持ち処理はストップしているので、今の段階で東北地方の瓦礫処理については依頼がない。もしも処理依頼が出れば、その時点で住民周知していく。

【委員】 バイオマス発電が、瓦礫の処理をするのに都合がいい施設。低コストな燃料。受け入れることになれば監視・チェックをしてほしい。

【事務局】 空間線量チェックなどで、仮に高い数値が出れば、企業に連絡し、処理を中断し、原因究明する。市として、市民の安全を守るために、敷地境界だけでなく空間線量

測定を続けていく。

【委員】 汚泥はほぼ有機物で、5パーセント程度が無機物。釜の中では1,500度となり、ほとんどの有機物は出て行く。残ったものがセメント原料になる話で、すべてが処理工程に戻り、外に出ない施設になっている。大きな濃縮はなく問題にならない。デンカ社は、セメント工場の中でも最後に汚泥を受け入れている。医薬品も作っていて、汚泥のイメージから断っていたが、依頼が多く仕方なく受けるようになった。確かにお金は入るが、社会貢献と思いやっている。汚泥処理する人がいない。溶鉱炉に匹敵する安全な施設。

【委員】 燃やしたら放射性物質はどうなるのか。燃えて灰になった段階では濃くなるのか。原料に入れるから薄くなるということか。

【委員】 残った無機質の中に入って薄められる。釜の中で原料として薄くなるということ。

【委員】 産業廃棄物として入ってくるものは、セメント原料の1パーセント程度。他の原料も入り薄められていき、先ほど話した1.6ベクレルまで薄まる。製品に多少入っていく。

【委員】 一般的な考え方は、原料を入れて燃やすと濃くなるイメージ。釜の中に入れることで原料が流れている工程に戻る。灰というものがない。一般の焼却物は灰が出て、濃度が高くなることで、処理する人は放射能を浴びるかもしれないが、セメント処理ではそれが無い。

【事務局】 希望があれば別途、図などで示すので今日はこの辺でどうか。

【委員】 環境保全農業、佐渡市の状況を知っているか。農業団体に啓発ということの具体的な例は。空中散布をやめ、良かったと思っているが、ラジコンヘリでの散布が復活し、それをやらないと村八分的にとられる現状がある。環境に配慮した農業にしてほしい。一部の農業は佐渡では使用しないことになっている。環境保全型農業について、ここで提案していただきたい。

【事務局】 環境は保全しなくてはならないが、経済的な面もある。農業を使用せざるをえない状況もある。やり方についてはいろいろあり、専門的になるのでここで論議は難しい。

【委員】 下水道未接続家庭への戸別訪問で、実際に設置するようになった数は。

【事務局】 22基の内の5基が根知地区。5基の内、訪問後に設置したのが2件。

【委員】 訪問に効果があったということ。そういうことをやっていかなければいけない。

【委員】 汲み取りしたし尿は、どこで処理しているか。県外に出ていることはないか。

【事務局】 し尿はすべて、須沢の清掃センターのし尿処理施設で処理している。

【委員】 市内に埋立地がないが、出雲崎に持って行っているのか。

【事務局】 そのとおり。

【委員】 瓦礫処理は県知事が慎重な態度。遠くまで運んで処理するには経費も必要。その土地でプロジェクトを組み、瓦礫に草木を植えている。瓦礫に対する嫌な感じ方が薄れていくと見ていた。

【委員】 汚泥受入れは、地域住民に説明し、理解を得てから進むということだが、間違いはないか。大飯原発の再稼働を見ると住民が納得してないのにやっている印象を受け

た。そういうのは糸魚川市ではやってほしくない。

【事務局】 説明会で多くの意見を聞きたい。東北地方の方は瓦礫の中で生活している。経費の掛からない現地ですべてやれば良いが、できない。できるところが応援しようというのが趣旨。汚泥についても、本来、排出元が埋立地を持って処理できれば良いが、できない。糸魚川市にはセメント工場があり、安全性が確保できるという判断の元に、今は考えている。住民説明会での不安については、対策や改善点で対応していきたい。

【委員】 反対者は最後まで反対するが、大方の方が受け入れに賛成する程度まで説明や処置をしてほしい。空間線量を測るというが、汚泥そのものを測定しないのか。

【事務局】 排出者が測定し、受け入れ社も測定する。従事者や製品への影響がないような対策。市民に影響が出るのは物質でなく、放射線。市では、それを測って市民の安全を守る。

【委員】 事業者の受け入れ結果を市でもらい、把握しておいたほうが良い。

【事務局】 排出元と企業からデータをもらう。議会とも話をしている。

【委員】 検査のサンプリングは市民代表も参加することもひとつの方法。検査はできなくても市民がサンプリングすれば、隠蔽ととられず信頼を得る。

【事務局】 原則的に市は得た情報をすべて市民に伝える。住民説明が終わらないうちはスタートしない。企業も排出元も承知している。

【委員】 当市も、埋め立てごみなど他の地域にお願いしている。絆。困っているのだから、協力は人として当たり前と思う。ぜひ進めてほしい。

【委員】 年中行事の記録映像の制作で、根知の盆踊りと話があったが、なぜ根知だけか。

【事務局】 確認していない。確認して周知する。

【委員】 細かい紙も、袋に入れて出せば良いが、感熱紙等はダメということか。

【事務局】 感熱紙や宅配便などの複写紙、シールが張ってある物、写真などが一部例外としてリサイクルできない。3/10 発行の分別帳の増補版で周知し、広報でも記載している。

【委員】 出雲崎で糸魚川のごみの処理をしているが、事業団でやっている。お客さんという感じで、ごみがないと成り立たないという状態でもある。

【事務局】 確かにそうだが、迷惑施設という考え方もある。一定の基準のものをお願いしている。施設を作るには周辺住民の理解が必要。

【委員】 無理にお願いしているということではないと思っている。

【委員長】 いろいろな考えがありここで論議すべきでないと思う。

【委員】 旧糸魚川地区での下水道施設の接続状況はどうか。

【事務局】 水洗化率は糸魚川地域の公共下水道で、91.2 パーセント。行政人口で 29,000 人、水洗化人口で 23,500 人程度なので差が未接続の人。下水道担当部局で努力しているが、経済的な理由などで現状はこうなっている。

【委員】 東バイパス、中央大通線ができ渋滞が緩和された。今の状況で終わらず、続くと期待しているが、能生方面に延びる見通しは。その課題は。

【事務局】 今後、押上バイパスへの接続は平成 26 年度までの接続を要望している。早川から間脇までの法線は着手できるか分からない。要望は出している。

- 【委員】 見通し経たない理由は
- 【事務局】 全国で公共事業は減っている。国も必要性の高いところから取り組むので、交通安全等、他の面からの要望が必要と考えている。
- 【委員】 能生までは、通してほしい。観光バスも糸魚川地区を回っているだけで能生に来ない。浦本は事故が多いので、設置が必要。

《基本目標3 地球環境》

- 【委員】 電気自動車の急速充電器、親不知ピアパークに持って行った理由。
- 【事務局】 一番近い上越市と魚津市の間は充電器がなかった。国道8号への設置場所としてピアパークとマリンドリームを検討した。年度内に工事可能であったピアパークとした。
- 【事務局】 通常の電気自動車は使わないときに充電。長距離運転の場合は時間がなく、30分で80パーセントの充電が可能。そういう利用が多い場所を選定している。
- 【委員】 設置費など費用がかかるのに、なぜ糸魚川市がやるのか。
- 【事務局】 環境への付加軽減を行政としても取り組む。高額な負担をしているが、全国的なチェーンが切れないようにする糸魚川市としての使命もある。全国への貢献、環境面も含め設置した。
- 【委員】 自然エネルギーの取り組みはどうか。独特な自然環境で、落差のある川もある。
- 【事務局】 再生エネルギーは地域密着のエネルギーで推進していくが、経済性では厳しい。買い取り価格として自然エネルギーを導入する施策を国もしている。行政として支援したい。市では導入しやすいことを重視し、家庭での太陽光について設置補助している。支援できるものを研究し、民間とも連携して進めていきたい。
- 【委員】 新しい斎場に、太陽光発電10キロワットを設置したとあるが、場内の照明をまかなえる程度か。
- 【事務局】 資金面などから10キロの施設を設置した。斎場の照明設備全部は無理。売電はしていない。
- 【委員】 森林開発など、市と民間が協力してということになるが、私としては市が先導して実施してほしい。
- 【事務局】 市としても人員や予算で限度がある。市が管理は難しい。自然エネルギーを利用していき考えはあるが、市ができるものとできないものがある。
- 【委員】 環境マネジメントシステムがひとつ増えているが、事業所はどこか。
- 【事務局】 株式会社タナベ様。
- 【委員】 大和川の前川工事で振動がすごいと聞いている。測定しているということだが、どういうふうに工事に反映しているか。
- 【事務局】 騒音等の苦情があれば、県や国交省により調査が行われ、当該住民の方に周知している。影響があるようであれば補償も含めて発注者が対応している。

5 その他

- 【委員長】 市の人事への要望について、先ほど話が出ていたが。

【事務局】 専門職としての採用も必要かと考えているが、一般に総合職として5年程度を目安に異動している。

【委員】 計画策定時の最初から携わっている人が会議にいないことが問題。人事にも話を通してほしい。

【委員】 職員は基本的によく引継ぎをやっていると感じている。専門性もあるが、広く知ってもらう必要もあるという面もある。

【委員】 ホームページで環境保全などの取り組みを公開しているが、それらへの市民の意見はどうか。

【事務局】 市長への便りとして、意見をいただいている。新しい施策はパブリックコメントをしている。

【委員】 26年度の達成目標で、現在クリアしているものは、見直しはどうしていくか。

【事務局】 目標数値を達成しているものは、今後、高めの設定をしていきたい。

6 閉会 鷺澤副会長